

第 20 回 夏休み自然観察記録コンクール

- ◇募 集 8月1日(休)～9月20日(金)
- ◇応募作品数 北海道内の小学校 28校から 71点(1年 18点、2年 10点、3年 15点、4年 5点、5年 14点、6年 9点)
- ◇入 選 入賞 9点、佳作 20点、学校賞 2校
- ◇審査委員 横山 武彦(審査委員長、北海道自然保護協会理事)
佐藤 謙(同会長) 在田 一則(同副会長)
佐々木克之(同副会長) 江部 靖雄(同常務理事・事務局長)
福地 郁子(同常務理事) 堀 繁久(北海道開拓記念館主任学芸員)
矢萩 学(北海道新聞野生生物基金事務局長)
- ◇主 催 一般社団法人北海道自然保護協会
北海道新聞社
財団法人北海道新聞野生生物基金
- ◇後 援 北海道教育委員会

1995年に当協会の創立30周年を記念して始められた夏休み自然観察記録コンクールは今年第20回を迎えました。

応募作品の審査会は9月24日、北海道自然保護協会内で開かれ、審査の結果、下記のように、金賞1点、銀賞2点、銅賞6点、佳作20点、学校賞2校が選ばれ、コンクールの結果は、北海道新聞11月16日付け夕刊の「道新週刊フムフム」に金賞・銀賞の作者・作品の紹介、審査講評とともに掲載されました。

▽金賞

吉川貴一朗(札幌市立大倉山小学校6年)
「甲虫の翅の秘密」

▽銀賞

菅原健太郎(札幌市立真駒内桜山小学校2年)
「見つけた!! ほっかいどうの虫」
藤松奏丞(恵庭市立恵み野小学校3年)
「セミの羽化と一生」

▽銅賞

島田煌希(札幌市立川北小学校2年)
「おじぎそうのかんさつ」
多田 遥(札幌市立大倉山小学校5年)
「家の周りにはいるハチ」
岩山航生(斜里町立ウトロ小学校2年)
「コエゾゼミのよう虫～せい虫のずかん」

鈴木健次郎(大空町立女満別小学校5年)

「ヒメヒナコウモリ」

山谷惟一郎(上富良野町立東中小学校3年)

「マダニについて、マダニの取り方色々」

山岡景康(苫小牧市立北光小学校5年)

「顕微鏡で見た小さなプランクトンの世界」

▽佳作

遠上力生(旭川市立近文第一小学校1年)

「あさがおのふしぎ」

朝比奈京太郎(札幌市立大倉山小学校1年)

「みのまわりにすむいきもの」

大井荀哉(同)

「ウチダザリガニのほん」

谷岡幸和(同)

「はつかだいこんのかんさつ」

木村優歌(同小学校4年)

「チューリップの秘密と観察」

櫛引秀斗(同小学校5年)

「プランクトン観察記録ノート」

佐藤 帆(同)

「じぐもの記録」

鎌田志保(同小学校6年)

「すがたの変わる植物」

谷 菜摘(同)

「雑草について」

柳町なお子(同)

「家のまわりに生えている雑草・野草の観察」
吉田柊輝（同真駒内桜山小学校1年）
「うみでみつけた いきもの ずかん」
稲野 響（同小学校3年）
「みぢかな アリの かんさつ きろく」
岸本隆之介（同小学校5年）
「大きな実がなれ 受粉 大研究」
小林結香（同藻岩小学校2年）
「夏の虫のかんさつ」
関根晴紀（同西岡小学校4年）
「スジエビモドキのかんさつ」
佐々木美橙（中富良野町立中富良野小学校2年）

「庭の野さいを切ったらどんな形？」
小田島美優（北広島市立大曲小学校3年）
「トノサマバッタのひみつ」
名張直大（函館市立亀田小学校3年）
「ぼくのまだらばった」
高橋 諒（江別市立豊幌小学校5年）
「豊幌の水辺にすむ生き物」
細野暉紘（鶴居村立鶴居小学校5年）
「オニグモは考える!!」
▽学校賞
札幌市立大倉山小学校
札幌市立真駒内桜山小学校

■ ■ ■ 植物や虫、大好き！ わたし・ぼくの自然観察の記録

審査委員長 横山武彦 ■ ■ ■

今回入賞した作品は、子どもらしい興味関心からうまれた探究心、観察や研究へのひたむきな姿勢と努力がにじみ出たものでした。作品の審査に当たっては、不思議だな、どうしてかなと思ったこと、新しい気づきに感動したことを、より深く知るために調べて、自分の手で記録し、考察、まとめられた作品が評価されました。小学校でもデジカメを学習や課外活動で使用する機会が多くなり、年々、作品にも写真が多く使われるようになりましたが、今回は、写真をただ貼るのではなく、観察の観点や考察についての表現に効果的に使用した作品が増えて来たことはよい傾向でした。

以下は、金賞、銀賞、銅賞作品についての講評です。

[金賞]

吉川貴一朗君は「甲虫の翅の秘密」をテーマに不思議を明らかにしました。カブトムシやクワガタムシが飛ぶ時に使う下翅は、甲虫の持つ外側の硬い翅（上翅）よりも長いのに、着地すると瞬時に内側にしまわれてしまう様子を見て、どのような仕組みがあるのか調べてみたものです。カナブン、カミキリムシも加えた4種の甲虫について、上翅と下翅の動き、翅の色や骨組み、透明さやうすさ、強さをビニール袋と比較しました。また、翅のたたみ方が「ミウラ折」という地図のたたみ方に用いられていることなども確かめ、図で示してありましたが、翅のたたみ方を、実際に折り紙を折ったものを添えて、その仕組みを分かりやすく示したことも評価されました。

[銀賞]

菅原健太郎君は、「見つけた!! ほっかいどうの虫」という図鑑を作りました。大好きな虫、チョウ、トンボ、甲虫など30数種について、自宅近くや札幌市内のいくつかの公園で捕え、写真とともに、その虫の特徴、動きや鳴きかた、羽化、のようすなども観察して記録したよい図鑑でした。

藤松奏丞君は「セミの羽化と一生」についてスケッチを入れながら丁寧にまとめました。セミの幼虫が土の中から出て羽化を始め、翅が乾いて飛び立つまでの経過を時間も記録しながら辛抱強く観察し、記録したものです。

[銅賞]

島田煌希君は「おじぎそうのかんさつ」。種を撒いて、発芽から成長の経過と振動による葉や枝の変化を観察、スケッチもきれいでした。

多田遥さんは、「家の周りにいるハチ」について、それぞれの名前と特徴、家の壁や庭の樹にできていた巣の場所をまとめました。

岩山航生君は「コエゾゼミのよう虫～成虫のずかん」。幼虫が成虫になるまでを観察しスケッチしたものでした。

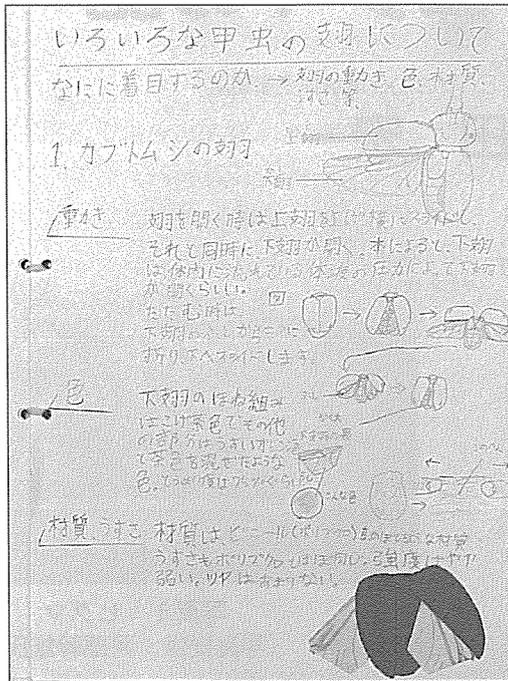
鈴木健次郎君は、「ヒメヒナコウモリ」を夜中に観察。他のコウモリとの違いが分かるようなスケッチも丁寧でした。

山谷惟一郎君は「マダニについて、マダニの取り方色々」。お父さんのからだについたマダニを採取。その取り方の色々を自分の考えとともにまとめました。取ったマダニを標本として付けてある

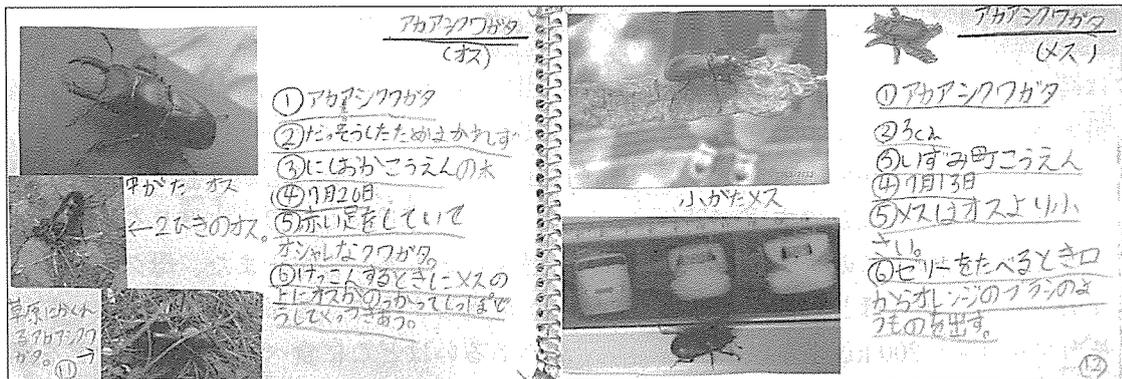
のもよかった。

山岡景康君は「顕微鏡で見た小さなプランクトンの世界」でした。淡水中の小さなプランクトンを顕微鏡で一つずつ観察しスケッチしたものです

が、自分の手で顕微鏡を操作して、自分の目で見て描いた一つ一つのスケッチには心がこもっていました。



金賞 吉川貴一郎君
「甲虫の翅についてまとめた吉川君の作品」



銀賞 菅原健太郎君
「さまざまな虫の名前や特徴をまとめた菅原君の作品」



銀賞 藤松奏丞君
「セミの一生を紹介した藤松君の作品」